1．本学の経営改革構想の概要

HOKKAIDO UNIVERSITY

大学経営改革 **IRデータを共通言語とする執行部と部局との対話**を通じた大学経営（**シェアド・ガバナンス**）により、本学固有の強み・特色である先端研究・実学研究を推進し、未来社会をデザインする人材を養成する。
同時に企業連携を強化し、**経営資源を持続的に獲得・配分する好循環を実現**する。

取組 ① アンビシャス若手人材の育成による研究力強化

「アンビシャス若手人材育成システム」の創設

・将来の研究リーダーたりうる若手人材層の登用

研究IRデータに基づくマネジメント

デザイン力を備えた大学院生の研究参画

研究成果を教授

取組 ② 未来社会をデザインする人材を養成する大学院改革

「大学院改革ステーション」の設置

・大学院教育プログラムのコーディネート

教学IRデータに基づくマネジメント

エビデンスに基づいた大学経営を実現するガバナンス改革

経営戦略室の機能強化

●IR戦略プラットフォームのエビデンスデータを活用し、部局との対話を通じ、透明性を担保した大学経営

＝シェアド・ガバナンスの実現

経営資源の好循環

研究成果・社会実装

研究・若手人材への収益還元

社会への人材輩出

教育への投資

取組 ③ 北海道大学発のSociety 5.0実証モデルを中核とした社会連携の促進

1.ビジョン共有型企業連携の実現

・産業構造の変化を先読みした組織対組織型共同研究の実施

2.産学と自治体との共創

・Society5.0の実現に向けた実証実験を通じた新たなまちづくりの実現を支援

3.アントレプレナー教育とベンチャー育成

・北大R&BPを活用した活動の実施

産学連携IRデータに基づくマネジメント

２．教育・研究の組織改革が国内外の研究者や学生に与えたインパクト

研究者・学生・地域・他大学への大きなインパクト

取組 ① アンビシャス若手人材の育成による研究力強化

・IRデータに基づき選考された「アンビシャス教員」が世界トップレベル研究に繋がる優れた研究成果

インパクト IF10以上の学術雑誌に２年間で33本の論文採択 うち８本はTOP1%論文

インパクト 「共創の場形成支援事業」における研究開発課題リーダーへの抜擢

取組 ② 未来社会をデザインする人材を養成する大学院改革

・多様なトランスファラブルスキルを養成するオーダーメイド型の大学院教育プログラムを設計
・国際標準規格である"オープンバッジ"を活用した獲得スキルの可視化も予定

インパクト 博士課程学生定員の30%以上に対して多様なオーダーメイド教育を提供

・産業界からの教育への投資により総額約２億円規模の奨学金プログラムを構築

エビデンスに基づいた大学経営を実現するガバナンス改革

北大BIの機能をベースとした大学共通のデータ可視化ツールである「大学共通BIテンプレート」を作成

インパクト 大学支援フォーラムPEAKSを通じて全国４国立大学法人に展開

全86国立大学の財務諸表データの可視化機能も開発中

経営資源の好循環を加速

取組 ③ 北海道大学発のSociety 5.0実証モデルを中核とした社会連携の促進

【取組③ー１】
・本事業の成果である産学連携ポテンシャル分析を活用し本学の融合研究領域を活用した北海道の一次産業の優位性を抽出し「北海道プライムバイオコミュニティ」を形成

インパクト 内閣府「地域バイオコミュニティ」に認定

【取組③ー２】
・未来の在るべき社会像の実現に向けた複数の産学官研究開発拠点の形成に向けた構想を立案

インパクト 「共創の場形成支援プログラム」に２拠点が採択

【取組③ー３】
・北海道のアントレプレナー教育とベンチャー育成を先導

インパクト 北海道・札幌市が「スタートアップ・エコシステム推進拠点都市」に選定

3．本事業の成果を基盤とした人的・物的リソースの戦略的配分の実現

⇒調書２頁【観点B】

経営力の更なる強化に資する戦略的な予算措置の実施

取組① アンビシャス若手人材の育成による研究力強化

・自主財源により、アンビシャステニュアトラック制度の継続に加え、アンビシャス特別助教制度の設立を決定。切れ目のないアンビシャス研究人材を育成。

デザイン力を備えた大学院生の研究参画

研究成果を教授

取組② 未来社会をデザインする人材を養成する大学院改革

・「北大・日立協働教育研究支援プログラム」の獲得に際し、自主財源から4,000万円以上を投じることを決定し、大型マッチングファンドの獲得に成功

エビデンスに基づいた大学経営を実現するガバナンス改革

・IRデータを活用して策定した総合的な人事計画の着実な実施に向けて、女性・外国人教員を採用した部局に予算上のインセンティブを付与することを決定

経営資源の好循環を加速

研究成果・社会実装

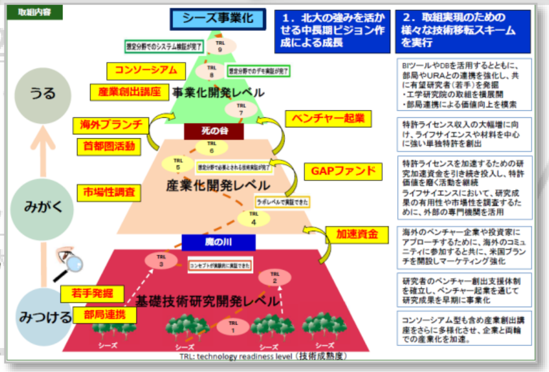
研究・若手人材への収益還元

社会への人材輩出

教育への投資

取組③ 北海道大学発のSociety 5.0実証モデルを中核とした社会連携の促進

・本事業の取組に加えて、自主財源により、産学協働マネージャを約10名増員することを決定し、外部資金獲得力の向上に向けた大型の投資を実施



本事業の取組を内在化させ、経営基盤の強化を図るための体制整備を着実に推進

取 組 ① アンビシャス若手人材の育成による研究力強化

・イノベーション創出に資する融合研究の創発や、それをDX時代の社会創造志向の産学連携に結びつける仕組みを備え、"価値共創"を推進する「データ駆動型融合研究創発拠点（D-RED）」を創設することを決定

「北」から「世界」へ・研究大学「北大」

デザイン力を備えた大学院生の研究参画
定着・進展
研究成果を教授

新たな発展
研究成果・社会実装
研究・若手人材への収益還元
定着・進展

取 組 ② 未来社会をデザインする人材を養成する大学院改革

・大学院教育を全学的見地でマネジメントする「大学院教育推進機構（仮称）」を自主財源により新設することを決定

「新世代高等教育の「北大」

動く・働く・確かな経営体「北大」

社会への人材輩出
教育への投資
定着・進展

データ駆動型大学「北大」

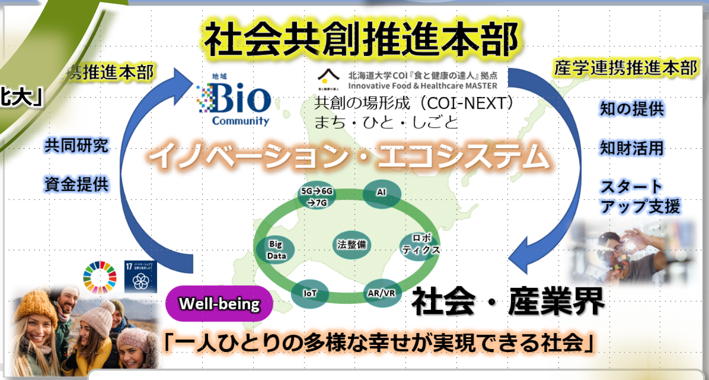
次世代へ・財務エコシステムの「北大」

経営資源の好循環を加速

取 組 ③ 北海道大学発のSociety 5.0実証モデルを中核とした社会連携の促進

・北海道の強みを活かすコンソーシアム型オープンイノベーションを推進するためのコーディネート組織として、「社会共創推進本部（仮称）」を自主財源により新設することを決定

繋がる・拡がる連携の「北大」



※第４期中期目標期間における「北大」の６つのビジョン「　　」